

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名（地区内集落名）	作成年月日	直近の更新年月日
鹿沼市	加蘇地区（野尻、加園、下久我、上久我）	令和 3 年 3 月 2 5 日	令和 6 年 3 月 3 1 日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	363.9ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	286.1ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	120.5ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	6.3ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	31.9ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0ha
(備考)	

注1：③の「○才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2：④の面積は、下記の「(参考) 中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3：アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4：プランには、話し合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

・加園、野尻地区と久我（上下）に分けられる。いずれの地区も共通して鳥獣被害が多いことに加え、災害による影響も大きかった。加園・野尻地区の担い手耕作率は約4割と高い。久我地区のうち、下久我も基盤整備されている区域を中心に担い手の耕作率は高いが、上久我地区は、奥の集落ということもあり担い手集積率は低い。地域の営農継続のためにも担い手や規模拡大希望者等へ農地集積・集約化が必要である。

注：「課題」欄には、「現状」を基に話し合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

・加園、野尻地区については、比較的担い手への集積率は高いことから、引き続き安定した営農が可能となるよう、鳥獣被害の対策に加え、地域の担い手への農地集積・集約化を図る。

・久我地区の山間部、特に畑については、地形的な問題から集積が困難な区域もある。圃場整備されている下久我の一部を中心に集積はある程度されているため、鳥獣被害の対策に加え、農地が適切に利用されるよう地域内外の担い手を中心に一層の集積・集約化を図る。

注1：中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。